

栽培漁業技術総合開発研究事業（トラフグ）

津本欣吾

目的

本県の主要な栽培漁業対象種であるトラフグについて、放流効果の把握と放流効果向上に係る知見の収集を目的とする。伊勢湾放流群の放流サイズの小型化及び熊野灘放流群の適地放流による資源添加効率向上によりトラフグ放流事業の効果的な推進を図る。

なお、結果の詳細は関連報文に報告したので、ここではその概略を記載する。

方法及び結果

1. 放流実績

- ・伊勢湾における適正放流サイズを明らかにするため、東海ブロック共同放流として、6月3日、10日及び7月1日にALC標識を装着したサイズの異なるトラフグ種苗を伊勢市有滝地先に合計217,000尾放流した。
- ・7月15日に栽培漁業資源回復等対策事業により、イラストマー標識（右胸鰭基部 緑）を装着したトラフグ種苗16,300尾を、伊勢市二見町地先に放流した。
- ・上記とは別に本年度県内に放流されたトラフグ種苗（無標識）は337,500尾であった。

2. 漁獲実態調査

- ・0歳魚を対象とする小型底曳網、1歳魚以上を対象とする延縄について漁獲統計調査を実施した。
- ・漁獲物調査とイラストマー標識魚の発見は、有滝・安乗・二木島市場を主体に実施した。この他、和歌山県三輪崎市場においても調査を実施した。
- ・まき網による春季のトラフグの混獲はみられなかった。まき網による産卵期のトラフグ親魚の漁獲は平成18年以降みられていない。
- ・小型底曳網の10月から3月までのトラフグ0歳魚の推定漁獲量は0.9トンで、多かった前年（1.6トン）の59%程度の漁獲量となった。
- ・延縄漁獲量は45.0トンで、近年では好漁年となった前年（71.3トン）の63%であった。しかし、前年極端に落ち込んだ平均単価は近年並みの水準にもどり、漁獲金額は2.5億円と前年（2.8億円）の89%となった。

3. 放流効果調査

小型底曳網

- ・イラストマー標識を指標とするH20年放流群の0歳

魚での回収率は、伊勢市放流群が0.28%、二見町地先放流群が0.17%、日間賀島沖放流群が0.06%であった。一方、ALC標識を指標とするH20放流群の回収率は伊勢市34mm放流群が0.05%、伊勢市42mm放流群が0.14%、伊勢市66mm放流群が0.47%と推定された。

延縄

- ・イラストマー標識を指標とした、県内延縄による過年度放流された各放流群の回収率は、1歳魚ではH19伊勢市放流群が2.41%、H19二見町地先放流群が0.88%、H19引本湾放流群が0.28%、H19太田川放流群が0.09%と推定された。さらに、2歳魚ではH18伊勢市放流群が0.31%、H18太田川放流群が0.28%、H18浜名港放流群が0.19%と推定された。
- ・安乗地区内の旅館6軒に依頼し、調理時に採集した耳石913サンプルを観察した結果、合計83サンプルからALC標識が確認された。ALCを指標とした回収率はH19伊勢市35mm放流群が1.21%、H19伊勢市45mm放流群が1.78%、H19伊勢市77mm放流群が3.57%と推定された。調理されたトラフグは1kg前後の1歳魚がほとんどで、平成18年度以前の標識は確認されなかった。

関連報文

平成20年度全国トラフグ栽培漁業技術開発検討会資料 大分県・愛媛県・山口県・佐賀県・三重県・静岡県・愛知県・石川県・秋田県・（独）水産総合研究センター屋島栽培漁業センター・能登島栽培漁業センター・南伊豆栽培漁業センター

平成20年度栽培漁業資源回復等対策事業報告書（太平洋海域トラフグ） 三重県・愛知県・静岡県